

看護学科

学科のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

<求める入学者像>

医学部の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」です。これは、「医療人は生涯にわたって病める人の身になって病苦と取り組み、人々の健康と福祉に貢献する」という精神を含んでいます。この基本理念に基づき、医学部は医学・看護学の知識や技術を教育するだけでなく、人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を育み、深い洞察力と生命倫理や生命の尊厳に対する深い認識を備えた医療人の育成をめざしています。また、進歩する医学・医療を生涯にわたり学習し続ける態度を身につけるため、少人数による課題探求型の教育にも力を入れています。地域医療を含む日本の保健・医療・福祉に広く貢献できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、推薦入試や学士編入学などの様々な入試方法も採用しています(入試枠によって出願要件が異なるので、詳しいことは学生募集要項で確認してください)。

医学部・看護学科では次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解、思考・判断)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(興味・関心・意欲、態度)

2. 人間が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱をもっている。

4. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

(技能・表現)

5. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

<入学者選抜>

AP1

基礎学力の評価のために、大学入試センター試験では5教科5科目を課している他、個別選抜でも筆記試験を行っています。また、医学教育のグローバル化に対応して、一般入試と推薦入試枠で英語の理解力を求める筆記試験を導入しています。

AP2～6

看護・保健の専門職を目指す者としての適性を含む受験生の多面的・総合的な評価のため、全ての受験生に面接試験を課しています。面接では、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校等や学校外での様々な活動についても質問します。

学科のカリキュラム・ポリシー(CP: 教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成と教育内容>

看護学科のカリキュラムは、1年生から3年生前学期まで、看護職者として必要な主要科目を講義や演習で学びます。入学後、早期(9月下旬)に1週間の附属病院での実習(基礎看護学実習Ⅰ)、2年生でも、2月下旬に2週間の実習(基礎看護学実習Ⅱ)で看護の基礎的な知識・技術を習得します。そして、3年生後学期から4年生の前学期の約6か月間は、本格的に現場で学ぶ各論実習を行います。4年生では死生学演習、看護研究、さらに4年間の集大成としての統合科目や統合実習を行います。

<教育方法>

1年次から看護学科の教育カリキュラムの他者への共感性を育むために、高齢者や子どもに関わるフィールドワークやビデオ学習を行います。また、自分の将来を早期に具体化し、勉学に取り組めるよう卒業生や先輩と交流会も実施しています。さらに早朝から臨床現場で患者にかかわる実習を経験し、段階的に臨地実習に備えて学内では、看護技術教育を強化し、各種シミュレーションを備えた実習室での演習を行います。3年次からは在宅や老人保健施設、保健所等の看護が実施されている様々な領域での小グループ実習を行います。そして、4年次には看護実践能力を高める複数受け持ち制・リーダーシップ・危機管理と対応した統合実習を行います。また、地域住民のニーズを踏まえた健康セミナーの企画・実施・評価や看護研究に取り組み、論理的思考や科学的な問題解決能力の育成さらには自己の看護観の確立を目指します。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。学年毎の進級には一定の条件があります。これに加えて、全ての学生は4年次には看護師、保健師(保健師課程を選択したもの)、の国家試験受験資格が与えられ、養護教育の課程を修了した者には教育職員の資格が与えられます。

学科のディプロマ・ポリシー(DP: 卒業認定・学位授与の方針)

<学部の教育理念と教育目的>

『患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療』という医学部開設の基本理念に基づき、教育目的を次のように定めています。医学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療

人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的としています。

さらに、看護学科においては、学部の基本理念に基づき、看護・保健に関する高度の専門的知識と優れた技能を有する専門職者として指導的役割を担う人材を養成することを目的としています。

<育成する人材像>

愛媛大学の理念等を踏まえ、学生の潜在能力を引き出す多様性、個別性に対応した教育の展開により、生涯にわたって自ら看護学の専門性を高め、自らの課題について主体的に取り組み問題解決ができ、他職種と連携してチーム医療を担う役割を果たし、看護分野におけるリーダーとなれる人材を育成します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

1-1) 看護職者として、専門分野の学問内容や知識を修得している。

1-2) 生命と人間に対する畏敬の念と豊かな感性を基盤とした人間理解ができる幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

2-1) 健康状態を科学的根拠に基づき理論的に判断し、健康の維持・増進と、健康障害の回復および終末期に応じた適格な看護判断と行動を示すことができる。

(興味・関心・意欲)

3-1) 地域社会に貢献できる能力と関心の幅を広げ、実践を通して自らの成長と専門性を探究していくことができる。

(態度)

4-1) 地域住民の健康の維・増進と健康障害からの回復に寄与するために、看護職者として自らの責任を認識し、その専門性を効果的に発揮し、予防的かつ総合的な観点から方策が提示できる。

(技術・表現)

5-1) 対象者に必要な看護ケアを、科学的根拠に基づき安全に実施することができる。

5-2) 地域住民や患者・家族、保健・医療・福祉に関わる多領域の人々と連携し、協働することができる。

<卒業認定・学位授与>

看護学科に4年以上(学士3年次編入生では2年以上)在学し、医学部規則に定められた単位数を修得した学生に対して、卒業を認定し学位(学士、看護学)を授与します。卒業判定には、4年次までの全ての単位を修得していることが必要です。

看護学科を卒業した学生には看護師、保健師（保健師課程を選択した者）の国家試験受験資格が与えられ、養護教諭の課程を修了した者には教育職員の免許資格が与えられます。